

中学校 ICT 機器導入に 465万円

◆ 追加の主なもの ◆

- ・ 万葉にこここ保育園運営委託料 2,050万円
- ・ 集落農業振興基金貸付基金繰出 1,412万円
- ・ 汚染牧草保護シート設置費用 135万円
- ・ 五反田住宅長寿命化設計委託料 1,037万円
- ・ 中学校 ICT 化機器導入経費 465万円
- ・ 万葉茶屋屋根雨漏り修繕料 348万円
- ・ 万葉にこここ保育園備品購入補助 122万円



万葉茶屋



ICT教育



汚染牧草



万葉にこここ保育園

あらまし

平成28年第2回定例会は、6月16日から17日までの2日間にわたり開かれました。
村長提出議案が、教育委員の任命同意1件、固定資産評価審査委員会委員の選任同意3件、専決処分の承認10件、平成

28年度各種会計補正予算3件、議員提出議案が、委員会条例の改正1件、意見書の提出2件、議会広報編集特別委員会廃止の決議1件の全21議案を審議し、全て原案のとおり可決されました。そのほか繰越計算書が2件報告されました。
一般質問は8人の議員が行いました。8Pから15Pに掲載しております。

○ 主な質疑 ○

ICT教育の推進

— 今後も電子黒板等の機器の拡充と、教師の技術向上を図っていくのか。
機器については、国や県の補助も模索して、徐々に拡充していきたい。

教師のICT技術向上については、宮城教育大学と連携しての研修等も検討している。

※ ICT教育

ICT（情報通信技術）の利用・活用方法の教育、またICT（情報通信技術）を駆使した教育

住宅長寿命化

— 今回、五反田住宅1号棟から4号棟全ての調査設計を行うが、具体的な工事の予定は、来年度から年次的に工事を行う予定である。

万葉茶屋雨漏り修繕

— 建築から相当の年数が経過している。屋根以外に改修の必要は。

汚染牧草の管理

— ラッピングした牧草を保護しているシートが破損したという対策は。

再度シートで保護し、月2回の測定を継続する。ラッピングについてはまだ問題はないが、再度ラッピングする場合は、東京電力に補償を請求する。

太陽光発電 計測システムの修繕

— 計測システム修繕には保証等はないのか。
平成23年に設置してから5年が経過しており、保守契約は結んでいない。今後の財産管理については、より注意していく。

議会活性化特別委員会 中間報告

◎特別委員会の設置

平成27年6月29日に議長を除く全議員で構成する特別委員会を設置しました。

◎特別委員会の開催状況

平成27年6月の第1回委員会開催以降、平成28年6月までに委員会を9回開催しました。開催月日及び審議の内容については以下のとおりです。

No.	開催日	審議内容
1	平成27年6月29日	正副委員長の互選について
2	平成27年7月27日	今後の特別委員会の進め方について
3	平成27年9月17日	一般質問について
		住民と議会との懇談会について
4	平成27年10月9日	住民と議会との懇談会について
5	平成27年12月24日	議会基本条例について
		常任委員会のあり方について
6	平成28年2月24日	議会基本条例について
		常任委員会のあり方について
7	平成28年3月10日	議会基本条例に関する小委員会の設置について
8	平成28年4月12日	広報・広聴を担当する常任委員会の設置について
9	平成28年6月21日	政務活動費について
		議会基本条例について

◎特別委員会の決定事項

審議の結果、下記の5項目について決定しました。
委員会では今後も、議会の活性化に向けて審議を行います。

1. 一般質問における一問一答・一括質問選択制の正式導入
2. 庁内機構改革に伴う常任委員会の再編
3. 審議の迅速化を図るため、委員会内に小委員会・分科会を設置できるとする会議規則の改正
4. 議会活性化特別委員会内に議会基本条例起草小委員会を設置
5. 広報・広聴を担当する常任委員会の設置



平成27年度
予算繰越

宅地造成事業特別会計ほか 6億4,100万円を繰越



会計別	事業額	翌年度繰越額
一般会計	5億5,146万円	3億662万円
宅地造成事業	5億70万円	3億3,438万円

◇予算の繰越とは
歳出予算の経費のうち、年度内に支出が終了しない見込みのあるものは、翌年度に繰り越して使用が出来ます。この経費を繰越明許費と呼びます。
繰越を行う場合、首長は翌年度の5月30日まで繰越計算書を作成し、議会に報告しなければなりません。

平成27年度
専決処分

一般会計ほか 3会計の補正

会計別	補正額	予算額	
一般会計	904万円	46億9,890万円	
特別会計	国民健康保険	△347万円	6億2,257万円
	介護保険	181万円	5億2,019万円
	後期高齢者医療	97万円	4,708万円

◆追加の主なもの◆

◎歳入の補正

- ・汚染牧草集積に関する東電損害賠償金………427万円

◎歳出の補正

- ・農林施設災害復旧総務費…820万円
- ・村営住宅退去に伴う修繕料………588万円

平成28年度
専決処分

臨時福祉給付金のため 一般会計を補正

会計別	補正額	予算額
一般会計	246万円	41億3,246万円

◎主な条例の改正（専決処分）

- ・大衡村税条例等の一部を改正する条例
軽自動車の環境性能による税率減免の特例等の改正

◎意見書の提出

「軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、及びその危険性や予後の相談可能な窓口などの設置を求める意見書」

提出先：衆参両院議長、内閣総理大臣、総務大臣、厚生労働大臣、文部科学大臣

「日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求める意見書」

提出先：内閣総理大臣、総務大臣、外務大臣

◇一般質問とは

定例会ごとに、村長や教育長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をたずねること、あるいは報告や説明を求めることを言います。

質問者一覧表

質問者	質問事項	ページ
齋藤 一郎	○居宅介護者への支援策を ○地区内公園・集会所広場の有効活用を	8
石川 敏	○土地開発基金により取得した土地の活用について	9
早坂 豊弘	○多機能型障害者福祉施設の計画の今後を問う	10
小川 宗寿	○プレミアム付き割増商品券発行事業について ○介護認定者世帯への生活支援について	11
細川 幸郎	○農地災害復旧の実績と今後の対策を問う	12
佐藤 貢	○若者定住対策について ○姉妹都市（友好自治体）提携の考えは	13
佐々木春樹	○今後村はどのような姿になっていくのか ○村の財政状況は今後どうなるか	14
文屋 裕男	○指名競争入札と指名業者選定について ○休職中の職員のこれまでの経過と今後はどうなるのか問う	15

一般質問
8人の議員が登壇

※会議録は議会事務局・ホームページで閲覧できます。



昨年の住民と議会との懇談会（大瓜下地区）

議会は、村民の皆様への説明責任を果たすため、そして村民の皆様から広くご意見をいただき、村政に反映させていくために、新しい常任委員会を設置しました。
今後は、議長を除く全議員で構成された広報広聴常任委員会が、下記の項目について調査を行います。
また審議効率化のため、広報分科会と広聴分科会を委員会内に設置しました。
議会だよりは、今号より広報分科会が編集を担当いたします。

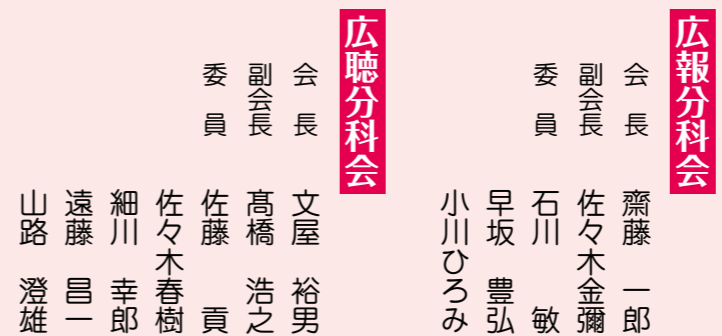
◎常任委員会の調査項目

- ① 議会広報の編集及び発行に関する事
- ② 住民と議会との懇談会に関する事
- ③ その他所管事務に関する事



◎委員会の組織図

委員長：小川 宗寿 副委員長：齋藤 一郎



広報広聴常任委員会の設置



齋藤 一郎 議員

居宅介護者への支援策を

「介護者のつどい」を 年2回開催

議員

自宅介護で頑張っている家族は、自分の時間も取れず、旅行はもちろん買物もままならない。家族であるがゆえに生ずる気持ちのすれ違いから、ともに辛い思いをしていることが多い。介護者が孤立しない為にも何らかの支援策を図るべきではないか。

村長

在宅介護者対象に年2回在宅介護者のつどいを開催し、悩みや不安を語り合う情報交換の場、勉強会の場としている。他に介護負担軽減を目的に介護家族支援レスパイト事業を実施している。

議員
「介護者のつどい」もローテーションを組みながら複数回できないものが検討したい。介護者への援助が可能か多面的に検討したい。

議員

地区集会所に附属した広場・運動場は、児童向け遊具を撤去したままで機能していない。村民の健康長寿のために健康遊具の設置を考えた。

公園・集会所広場の 遊具の安全性確保無しでは困難

有効活用を

村長

全国の健康遊具は平成10年5690台から平成22年には約4倍との報告がある。健康増進と介護予防の観点から多くの自治体で設置し、増加傾向にある。高齢者の健康増進に有効と認識しているが、安全性を考慮した遊具の選択や使用方法を十分検討を重ねたうえでなければ困難と考えている。



介護者のつどい

村長

土地開発基金で現在保有している土地は、8件で面積が233399㎡、取得金額は1億2789万円である。当時は都市計画道路や公園などを整備する目的で先行取得したが、事業の優先順位や社会情勢の変化などから未だ事業化に着手出来ない状況であり、今後事業実施は厳しい。

議員

実施計画の中で計画している道路改修や市街地整備等は、用地を土地開発基金で先行取得することで、事業の着手がより早く進むのではないかと考えている。

村長

実施計画の事業については、補助事業等は事業ごとにそれぞれ財源が計画されているので、土地開発基金による用地取得は考えていない。

議員

事業化の見通しが困難な土地は、早く実施への目途をつけて活用すべきである。今後どのように管理していくのか。

議員

土地開発基金による土地の取得は、明確な事業実施計画のもとに活用すべきである。今後の運用方針は、

村長

今後事業実施が困難な土地については、取得目的以外の活用ができないか、または財産処分も含め判断していく。

村長

公有地は村民全体の財産であり、土地の取得目的が総合計画等のもとに事業計画が明確で緊急性があるか、基金財産での保有期間が短くなるか、総合的に判断し活用していく。



石川 敏 議員

土地開発基金で取得した 土地の活用を

事業実施は難しい 財産処分も検討する



活用が待たれる村有地（衡下地区）

議員

村では公共用の土地を先行取得する目的のため、土地開発基金を昭和46年に2千万円で創設し、現在基金総額は2億2544万円になっている。取得した土地の中には、二十年以上経過したまま事業化への目途が立たず「塩漬け」状態の土地も見受けられる。今後、事業化に着手できる見通しはあるのか。



早坂 豊弘 議員

多機能型障害者 福祉施設の計画について 事業者と連携して進める



多機能型障害者福祉施設

議員 今年4月に、村長から多機能型障害者福祉施設の計画があると説明を受けたが、その後の進捗状況を聞く。

村長 障害者総合支援法になり、障害福祉サービス利用者は年々増加しており、そのサービスの拡充が図られてきている。

議員 いま住民が希望しているデイサービス・ショートステイ、リハビリはどう考えていくのか。グループホームや就労支援策については。

村長

本村では47名が何らかのサービスを利用しており、このうち32名が村外施設へ通所している。この状況を踏まえ、第4期障害福祉計画において障害福祉施設整備の必要を考え、整備の手法として、民設民営を基本とし、社会福祉法人「みんなの輪」に、施設整備の検討を要請した。

利用者のニーズを的確に把握することに努め、事業主体である「みんなの輪」と連携して進める。要介護度の低い方々の多くは、在宅生活の継続を希望しており、デイサービスやショートステイは有効なものと認識している。

議員 施設建設について村と対応していくことはなにか。

就労支援策については、黒川自立支援協議会と連携を図りながら、準備を進めたい。又、社会福祉協議会等の協力を得ながら考えてもいく。

村長 現在は、事業構想策定施設設計の委託事業者を選定している段階であり、計画がまとまり次第、宮城県に補助事業の要望を提出する。



小川 宗寿 議員

プレミアム付 商品券事業について 消費効果があった

議員 平成27年度「プレミアム付き割増商品券」取扱い事業を、郡内他町の様に「黒川商工会大衡事業所」へ財源移譲や委託が出来なかったのか。

村長 初の事業であり、取扱店の募集や販売事務、金融機関や換金手続き等、事務処理は多岐にわたったが、商品券作成から換金終了まで特に問題はなかった。

議員 黒川商工会大衡事業所が商品券管理のため金庫を購入し販売に備えているが、万葉・おおひら館で業務の全てを一括管理するとの流れもあったというが、このような事実はあったのか。

産業振興課長 金庫の購入の件は把握していない。

村長 最終的には商工業者の利便性から村、商工会、万葉・おおひら館の三者で行うことになった。

議員 この事業を継続していく考えは。

村長 村でもこのような事業を継続して企画出来ないか検討していきたい。

介護認定者への 生活支援は

今後検討していく

議員 救急搬送者が増加傾向にある。福祉行政における地域福祉・在宅福祉の一環として、歩行困難者への退院時の支援を考えられないか。

議員 高齢者在宅支援を含む介護予防、日常生活支援などを検討すべき時期と考えるが。

村長 今後、直営事業以外で何らかの支援策を検討していきたい。



プレミアム付き商品券



細川 幸郎 議員

農地災害復旧の 実績と今後の対策は 農業振興に力を注いでいく



平成27年関東・東北豪雨での被害状況

議員 昨年の豪雨災害による農地復旧事業の実績について問う。

村長 国庫補助を受けるのは12ヶ所、国の事業の対象とならない水路及び溜池等へは、村単独で復旧を行っている。

現在まで97ヶ所が完了しているが、今年の収穫後の復旧を予定しているところもある。

議員 農地や農業用施設への村単独事業の支出額はいくらか。また、今後の見込み額は。

村長 5月末現在で2558万円の補助金交付を行っており、今後は約1千万円の支出を見込んでいる。

議員 今回は激甚災害により補助率80%としたが、今後も村単独事業においてこの補助率を継続する考えはないか。

村長 村の農業用施設等維持管理支援事業補助金交付要領に、新たに激甚災害に対する補助区分を追加し補助率80%とした。今までは、国や県の補助対象にならない部分を、村単独で「農業用施設小災害復旧支援事業」として農地50%、農業施設70%の補助である。これを全て80%にできるか検討したい。

議員 大型台風や集中豪雨により、その都度、復旧を要する河川がある。特に、木通川は去年の豪雨災害、その前年の台風19号でも被害があった。抜本的な改修が必要ではないか。

村長 村では、椋田川・沓掛川・駒場川・大森川・木通川の5河川を管理している。中でも木通川は蛇行した線形であることから頻繁に被害があり、その都度、現況復旧をしている。抜本的改修には、圃場整備とあわせる必要がある。また、事業費が大きく、財源の裏付けが課題である。当面は災害復旧費補助金を活用しながら現状復旧で対応せざるを得ない。

村の農業用施設等維持管理支援事業補助金交付要領に、新たに激甚災害に対する補助区分を追加し補助率80%とした。今までは、国や県の補助対象にならない部分を、村単独で「農業用施設小災害復旧支援事業」として農地50%、農業施設70%の補助である。これを全て80%にできるか検討したい。

議員 新しい住宅団地の整備は、かなりの工事費がかかるが、空き家、空きアパート等を賃貸住宅として活用する考えはないか。

村長 人口増を図る上では重要な手段だと思う。本村に移住を希望する方のために、賃貸としての活用も含めて、移住・定住策を講じていきたい。

姉妹都市提携の考えは 重要と認識している

議員 文化交流や親善を目的とした国際交流や自治体間との交流を図る上で姉妹都市の提携を考えてはどうか。

村長 豊かな人間形成や人材育成、自治体間相互の発展と交流を図る上で、重要と認識している。

議員 災害時における応援協定を結んでいる自治体も増えてきているが、本村の現状は。

村長 企業や郡内の自治体とは協定を結んでいるが、県外自治体との協定締結までは至っていない。

若者定住の対策は 定住に向けた新たな 支援策を考えていく



万葉にこにこ保育園

議員 村では現在、定住促進事業として住宅団地の整備、住宅取得支援事業等を進めているが、子育て世代の負担を軽くし、安心して子育て出来る環境づくりが大切である。子育て、保育等の支援の現状は。

村長 今年1月から実施している「万葉のびのび子育て支援券」は紙オムツや粉ミルク購入も可能になり、従来のタクシー利用券に比べて、約1・8倍の利用となっている。また、医療費助成事業、給食支援事業、保育料の保護者軽減補助金などを実施しており、新たな支援策も検討している。

議員 若年層定住のためには雇用確保が不可欠だと思うが、本村における雇用の状況はどうか。

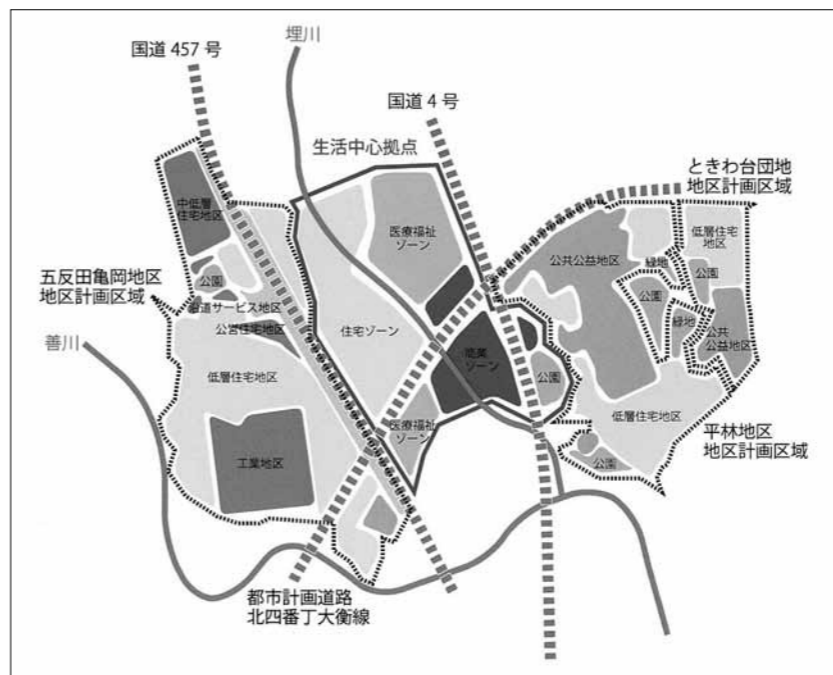


佐藤 貢 議員



佐々木春樹 議員

村の将来像は 村民と共に創っていく



中心市街地開発イメージ図

議員 今後村はどのような姿になっていくのか、村長の描く将来像を問う。中心市街地整備計画を進めていくには村長のリーダーシップが必要と考えるが現状は。

村長 これまで地権者アンケートの実施や、都市計画や農政に係る宮城県担当部署と協議を進めてきた。

国勢調査結果を基に、本年12月に県から仙塩広域都市計画区域の整備等の方針が示される。それまでは関係機関に、中心市街地の整備の必要性を訴え、引き続き協議を進めていく。

議員 国道4号の4車線化に伴う周辺道路計画はあるのか。

村長 現時点で説明できない。村として、早期の工事着手と供用開始のために調査段階から国土交通省へ協力し、よりよい利便性の高い道路となるよう要望していく。

議員 地区計画、特に五反田大童地区のまだ開発されていない区域に対して、どういったアクションがあるのか、変化はないのか、村長の考えは。

村長 開発について幾つかの相談がある。今後も民間主導による開発が促進されると考える。

五反田・亀岡地区計画内は今後、一体的な開発計画を誘導しながら地区整備計画区域の拡大を図っていきたい。

議員 村道の新設や、河川の維持についての考え方は。

村長 全体的な土地利用計画を、地権者はもとより、関係する様々な関係者からの意見を聞きながら検討していく必要がある。

こんな質問もしました

A Q 村の財政状況は他市町に比べ高い水準である。



文屋 裕男 議員

指名競争入札 業者の選定は 入札参加者指名基準による

議員 今まで入札に参加していなかった業者が、最近になって入札に参加するようになった。業者を指名する基準はどのようになっているのか。

村長 指名競争入札参加者指名基準に基づき契約業者指名委員会が指名している。

議員 急な入札参加に疑問を持ち、入札調書の公開を求めて調べたところ、平成27年8月28日から平成28年1月22日の間に、ある業者は4回、別の業者は2回参加している。

このことについて村長の見解は。

村長 指名委員会が工事の金額に応じて業者数、当該等級を決定し、施工実績、施工能力を総合的に判断し選定を行っている。そこに何ら不自然な点があるとは認識していない。しかし、疑問の声があるというのであれば調査をする。

議員 業者の指名に介入が認められたなら、村長はどうするのか。

村長 事実を確認し、判明したならば必要な措置を講じる。

休職中に支払われた 給料の総額は

地方公務員法に従っている

議員 休職中の職員の給料の総額、休職後の処遇、退職金の計算はどうなるのか。面談は何回したのか。

村長 地方公務員法に基づき、職員の給与に関する条例第24条第1項第3号の規定により、休職後1年間は給料の80%が支給される。その後は支給されない。

総額は個人情報に当たるので答弁出来ない。退職金については、休職期間中の月数は二分の一と計算される。

総務課長 面談は2回実施した。

調査年月日：平成28年5月13日

調査年月日：平成28年5月16日



**●(株)ベジ・ドリーム栗原
(第2仙台北部中核工業団地内)**

- 施設の概要
 - ・施設名称：ベジ・ドリーム栗原第3農場
 - ・農商工連携モデル事業
 - ・用地面積：3ヘクタール
 - ・栽培面積：1.8ヘクタール
 - ・パプリカ生産能力：315t/月
- ※トヨタ自動車東日本大衡工場の自家発電設備（コージェネレーション）の排熱を利用して、パプリカの生産を行っている。

**●地域型保育施設整備工事
(地域活動支援センター内)**

- 施設の概要
 - ・施設名称：万葉にこにこ保育園
 - ・委託法人：社会福祉法人三矢会
 - ・定員：12名（0歳児～2歳児まで）
 - ・整備箇所：支援室2部屋（畳敷き、フローリング）、幼児用トイレ等
 - ・開園日：平成28年6月1日



**●米軍射撃移転訓練
(王城寺原演習場)**



- 訓練の概要
 - ・訓練規模：中隊レベル
 - ・訓練人員：約200人
 - ・使用砲数：6門
 - ・使用車両：約60両

その他の所管事務調査

- 大衡工業団地への企業誘致
(松原地区)
 - ・商号：全農物流株式会社
 - ・敷地面積：25,703.23㎡
 - ・建物面積：約10,000㎡
 - ・建物種類：低温倉庫・常温倉庫・事務所
 - ・投資額：約22億円
 - ・操業開始：平成29年秋（予定）

●平成28年度生産調整

項目	面積	備考
生産調整目標	4,366,600㎡	転作率40.68%
転作計画	4,641,719㎡	備蓄米面積168,896㎡

その他の所管事務調査

- 宮城県ドクターヘリ運航に係る土地利用について
 - ・目的：近隣で重症患者が発生し、ドクターヘリの対応が必要となった場合にランデブーポイントとして臨時的離着陸に利用
 - ・運用開始：平成28年10月以降（予定）

候補地	
1 防災用ヘリポート	4 大森集会場前広場
2 西部球場	5 駒場集会場運動広場
3 万葉クリエートパーク	6 衡東集会場運動広場
7 蕨崎集会所運動広場	8 牛野ダムキャンプ場

- 平成28年熊本地震の被害に対する支援
 - ・熊本県町村会に対し、宮城県町村会から見舞金※300万円贈呈
 - ※内訳：宮城県町村会80万円、22町村220万円（10万円×22町村）

- 万葉クリーンエネルギーカー導入促進事業補助金について
 - ・平成27年度予算：1,000,000円
 - ・交付金600,000円

- 万葉サンサンエネルギー発電普及促進事業について
 - ・平成27年度予算：10,500,000円
 - ・交付金2,450,000円

**陳情の
審査**

「軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、及びその危険性や予後の相談可能な窓口などの設置を求める陳情」

- ・陳情者：軽度外傷性脳損傷仲間の会
- ・委員会審査結果：採択すべきものと決定→6月定例会に議員発議で提出し採択された

最強！スポーツ少年団



衡中東地区

小川 克也さん

今回、日頃より議会だよりを愛読している皆様に、スポーツ少年団の素晴らしいところを全面的にお伝えしたいと思えます。

例えば、私が指導に携わっているやまなみ女子バレーボールにおいても、子供達の目まぐるしい成長を感じております。火・木・土曜日の練習に加え、日曜日の試合と忙しい日々を送り、その分限られた時間の中で上手に配分し、勉強や遊びも充実させています。

好き嫌いも減り、よく食べるわが子を見た母親達は、料理の腕が上がってきます。丈夫な体になり、運動会やマラソン大会が、家族全員楽しみになっています。

また、指導者や応援してくれる家族への感謝の気持ち、チームメイト（友達）を思いやる気持ちが増し、信頼関係を築く事ができます。

皆さん、スポーツを通して、強い決断力と自信を持って人生を歩んでいける子ども達を、一緒に育てていきましょう！

固定資産評価審査委員会委員



古賀 昭信氏



岡本 勝成氏



佐々木 修氏

固定資産評価審査委員会委員の選任について、議会の同意を求められ採決の結果、全会一致で同意しました。

任期：平成28年7月1日～平成31年6月30日

教育委員



鎌田 澄子氏

教育委員の任命について議会の同意を求められ採決の結果、同意しました。

任期：平成28年8月9日～平成32年8月8日

あと
がき



昨年の改選から早くも一年が過ぎました。役場庁内の機構改革や新事業への取組等を、議会として住民の皆様へ報告するために「議会だより」が果たしている役割は、とても大きなものがあります。

この「議会だより」をより良いものとするために、メールやファックス等でも皆様のご意見、ご感想をお聴かせ下さい。

小川 宗寿

大衡村議会

広報広聴常任委員会

委員長 小川 宗寿

広報分科会

会長 齋藤 一郎

副会長 佐々木金彌

委員 石川 敏

委員 早坂 豊弘

委員 小川ひろみ